

台湾総督府公文書「紅頭嶼流行病調査復命書」

足 立 崇[†]

Official Document of Taiwan Governor-General,
'Report of the Investigation of Epidemic in Kotosho'

ADACHI Takashi

台湾本島の南端から東へ74kmのところ蘭嶼という火山島がある。ここには台湾原住民のヤミと呼ばれる人々が暮らしている。日本統治時代、蘭嶼は紅頭嶼と呼ばれ、ヤミの人々は傾斜地に半地下の独自の家屋に建て、自給自足の生活を行っていた。この紅頭嶼で1916年に流行病が発生し、多くのヤミの人々が亡くなった。本稿は、このとき行われた流行病調査の報告書類を一部翻刻するものである。

現在、公文書の調査報告書類として確認されているのは、下記4種の資料である。

- 資料1. 羽島重郎防疫医官による「台東庁下紅頭嶼流行病調査概要」
- 資料2. 台東庁長能勢靖一から民生部警察本署長宛て庄司常治警察医囑託の報告添書
- 資料3. 庄司常治警察医囑託の「紅頭嶼流行病調査復命書」写し
- 資料4. 警察本署長発、羽島防疫医官宛ての電文を含む7つの文書

これらの資料は、曾田長宗によると「ポリオが処女地に侵入した流行例として国際的にも貴重な報告」¹⁾と評価されており、上記4種の資料は、「曾田氏が台湾に在職中、廃棄文書中より発見し持ち帰られたものである」²⁾という。曾田長宗(1902-1984)は、1935年

[†]大阪産業大学 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 准教授

草稿提出日 2月20日

最終原稿提出日 2月22日

1) 日本科学史学会編：『日本科学技術史大系 25 医学 2』，第一法規出版，1967，p.39

2) 同上，pp.39-40

に台湾に渡り、台湾総督府技師として総督府衛生課に勤務するかたわら、台湾総督府中央研究所技師も兼ね、同研究所衛生部に勤務した人物である。1939年、中央研究所衛生部が熱帯医学研究所に改組され、台北帝国大学に付置されると、台北大学助教授に任じられ、米国に1年留学した後、教授に任じられ、熱帯医学研究所に勤務した。戦後は、国立公衆衛生院で公衆衛生に関する調査統計を進め、衛生部統計部長にもなっている。今回、資料1～4の写しを入手したが、資料1は、『日本科学技術史大系 25 医学 2』（日本科学史学会編1967）にはほぼ全文が掲載されているため、本稿では資料2, 3を翻刻したい。

台湾総督府公文書は現在、台湾の国史館台湾文献館で『台湾総督府公文類纂』として整理保管され、公開が進んでいる。しかし、本稿でとりあげる資料はもともと廃棄文書から日本に持ち帰られたものであるため、『台湾総督府公文類纂』には含まれていない。そうした意味からも、貴重な資料と言える。また、近年発生した新型コロナウイルスに対する台湾政府の対応が評価され、注目されているが、日本統治時代台湾における流行病発生時の初期対応事例として本資料は貴重なものとする。さらに、本報告書類には、当時の家屋のあり様や各集落の戸数、人口なども書かれており、当時の生活環境や衛生環境を知るうえでも貴重である。

なお、資料3には、ヤミの人57名の病状(姓名、年齢、男女、初期症状、経過、主症状、腱反射、栄養、心臓症状、呼吸器、熱、知覚、その他)も表にまとめられているが、100年以上前の資料とはいえ、個人情報保護の観点から表の姓名の欄については空欄にし、割愛した。また、資料の多くは旧漢字、片仮名表記の文章になっているが、読みやすくするためおおむね現行漢字に改めた。また、「蕃」など現代では不適切とされる表現も見られるが、当時の資料のまま使用することを、あらかじめことわっておきたい。さらに、原文は縦書きであるが、横書きのレイアウトとし、誤字と思われる箇所はそのまま表記している。

<資料2 本文>

大正五年八月十六日

台東庁長 能勢靖一

民政部警察本署長殿

台東 警衛第一五五六号ノ一

紅頭嶼蕃族病状調査二千スル件

本件ニ付先ニ羽鳥医官御派遣相成候処当庁ヨリモ庄司警察医嘱託ヲ全行セシメ病状調査セシメタルニ別紙写ノ通復命候条為御参考右通報ス

終

<資料3本文>

写

紅頭嶼流行病調査復命書

台東庁下紅頭ニ於ケル流行病調査ノ命ヲ受ケ七月二十五日出發紅頭嶼ニ滞在実査スルコト六日間ニシテ八月三日帰庁シタリ其状況左ノ如シ

第一 緒言

紅頭嶼ハ卑南ノ南方約四十哩ヲ距ル海中ノ一小孤島ニシテ其周廻ハ九里余島ノ内部ハ大部分重疊タル山地ニシテ最モ高キ山岳ハ海拔二千尺ヲ示スト云フ山ニハ雜草雜木繁茂ス平地トシテハ周囲ノ海岸ニ僅カノ傾斜地ヲ有スルニ過キス

該島ニハ七蕃社ヲ有シ其人口一千五百四十二名ヲ算ス(本年六月末実査)左ニ各蕃社別戸数人口表ヲ挙グ

蕃社名	戸数	人口		計
		男	女	
イマウルル社	三四	八八	八八	一七六
イラタイ社	六七	一五八	一七八	三三六
イワタス社	九	二一	一七	三八
ヤユー社	七二	一八〇	一二四	三〇四
イララライ社	五一	一四五	一一六	二六一
イラヌミルク社	二六	一一三	九一	二〇四
イワギヌ社	四三	一一五	一〇八	二二三
總計	三一二	八二〇	七二二	一五四二

該島蕃人出生及死亡ヲ見ルニ昨年ハ上半期ニ於テ出生三十三名死亡十四名後半期ニ於テハ出生三十一名死亡七十五名ニシテ即チ一ヶ年出生六十四名ニ対シ死亡二十九名ヲ見タリ該当蕃人ハ「ヤミユ」族ト称スル未開ノ蕃族ニシテ男子ハ禿女子ハ腰卷ヲ致シ居ルノミニシテ年中裸体ナリ彼等ノ常食ハ甘藷及水芋ニシテ稀ニ魚肉豚肉及山羊肉ヲ食ス近来粟ヲ植エ病氣ノ時ナト粟粥ヲ食スルモノアリト云フ、

住居ハ暴風ヲ防ク為メ土ヲ掘リ其凹処ニ萱茸ノ倭屋ヲ構フ床板ヨリ天井ニ至ル高サハ三、四尺ニシテ起立シ難ク入口ハ狭小ニシテ匍匐セサレバ出入スルコト能ハス尤モ各戸別ニ作業場及涼場ヲ備フスクノ如キ有様ナレバ勿論寝スルニ褥ナク床板ニ裸体ノ俣起伏ス、蕃人ノ体格栄養ハ一般ニ可良ナラス顔面蒼白色ニシテ脾臟肥大ヲ有スルモノ甚ダ多シ而シテ長寿者ハ甚ダ乏シク六十才ヲ超ユルカ如キモノハ実ニ稀ナリ、

スクノ如キ蕃人ナレハ医療ノ途ヲ解セズ一旦病魔ニ冒サルレバ蔓草ヲ身体ニ纏絡シ豚脂ヲ

塗り彼ノ倭居屋ニ蹲踞シテ自然ノ経過ヲ待ツノミ

該島ハ熱帯圏内ニ在リト虽モ涼風ノ常ニアリテ暑熱ヲ和ケ清泉至ル処ニ湧キ清蘚ノ地ナルモ至ル処重畳タル山地ニシテ平地ニ乏シケレハ到底多数人口ヲ容ル能ハス且ツ茲ニ特記スヘキハ蕃人ニハ「マラリヤ」罹病者多ク蚊族モ「マラリヤ」ヲ媒介スル「アノフェレス」ノ甚ダ多ク見ルコトナリトス

蕃人ニ尋ヌルニ今回ノ如キ流行病ハ未ダ嘗テ経験セスト云フ今回ノ流行病ハ本年一月下旬ヨリ始マリ其症状ハ発熱アリテ頭痛ヲ覺エ咳嗽及咯痰ヲ致シタリト云フ五月中旬ヨリ七月中旬迄ハ最モ猛烈ナル流行ヲ見各蕃人一人トシテ罹患セサルモノナカリキト云フ死亡モ其間ニ最モ多ク為メニ各蕃社全ク寂寞ヲ極メタリト云フ而シテ七月ニ入りテ各蕃社ニ亘リ四肢ノ麻痺ノ続出ヲ見ルニ至レリ死亡者ハ六月末迄百四十一名七月ニハ八十五名ヲ出セリト云フ勿論此ノ死亡者ハ全部該流行病ニ因スルモノトナスヘカラサルモ例年ノ死亡数ヲ一ケ年三十名内外ノモノト見做セハ今回流行病ニテ死亡セルモノハ実ニ二百余名内外ハ有之モノト信シテ可ナラン又今回ノ流行病ハ駐在所ノ所在ナル「イマウルル」社ヲ先ツ襲ビ次テ附近ノ蕃社ニ伝汎シ「イマウルル」社ト反対側ナル「イラヌミルク」社及「イワギヌ」社ハ最モ後レテ流行セルコト、本年四月ニ台湾共進会ニ蕃人ノ観光ニ出懸ケタルコト及ビ本年春期ハ例年ニ比シ甚シク寒冷ヲ覺エタリト云フコトハ事実トシテ茲ニ記ス

而シテ目下ノ流行状態ハ如何ト云フニ主タル寒冒様ノ流行ハ殆ンド全ク終息ヲ告ケ七月下旬ヨリハ死亡ハ現ニ減シタリ目下最モ注意ヲ引ケルハ各社ニ亘リ両下肢或ハ上肢ノ麻痺ヲ呈シテ病臥セルモノハ実ニ多ク庄司等ノ診察セルモノニテ五十余名アリ

右死亡者ノ年令別ヲ見ルニ精確ナルコトハ知り得サルモ九十名ニ付十才以下二十二名二十才以下六名、三十才以下二十二名、四十才以下二十一名五十才以下十三名六十才以下十五名ヲ見タリ、

第二 患者診査

各蕃社ノ患者ヲ診査セルニ寒冒様流行性疾病ノ猖獗ノ期ハ已ニ過キ去リ現在ニ於テハ新患ノ發生少ク死亡者減少シ多クハ病後ノ衰弱患者又ハ流行病ノ胎後症トモ認ムヘキ四肢ノ麻痺患者ニシテ而モ一、二ヶ月ヲ経過セル陳旧性ノモノ多ク稀レニ二、三週以内ノモノナキニ非スト雖モ概シテ新シキ患者ニ乏シク主病タル流行病ノ調査ニハ甚ダ不便至極ナリ然シ流行病ノ後ニ如此キ多数ノ四肢麻痺患者ノ發生ヲ見ルハ実ニ珍ラシキ实例ニシテ研究ノ価値アルモノト信ス

左ニ実査セル患者症状ノ概要ヲ表示セン³⁾

姓名	年令 男女	初期 症状	経過	主症状	腱反射	栄養	心臓 症状	呼吸器	熱	知覚	其他
	六 男	寒冒	二ヶ月	両下肢ノ不全麻痺(運動性以下全)	左アリ 右ナシ	下肢萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
	二七 男	寒冒	一ヶ月	左下肢全麻痺 右下肢不全麻痺	左ナシ 右減弱	下肢萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	鈍麻	
	四〇 男	一ヶ月 寒冒	二十前ヨリ 麻痺	両上肢不全麻痺	ナシ	両上肢萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	
	五二 男	二ヶ月 寒冒	全右	両下肢麻痺	ナシ	四肢特 ニ下肢 萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	鈍麻	
	三五 男	三ヶ月 前寒冒	数日前ヨリ 麻痺	両下肢運動時疼痛及無力	減弱	全右	ナシ	ナシ	ナシ	全右	
	四五 男	一ヶ月 前寒冒	二十日前 ヨリ麻痺	左下肢及左上肢ノ運動時疼痛並ニ不全麻痺	全右	四肢萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	
	二〇 男	不明	二ヶ月前 ヨリ麻痺	両四肢麻痺	ナシ	下肢萎縮	左界拡大 心音亢進	ナシ	ナシ	鈍麻	
	三〇 男	不明	二ヶ月前 ヨリ	両下肢運動時疼痛及無力	ナシ	下肢萎縮	肺動脈 第二音 亢進	ナシ	ナシ	ナシ	
	二三 男	不明	一ヶ月前 ヨリ	両下肢不全麻痺	減弱	全右	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	
	二五 男	不明	不明	下肢疼痛	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	
	四五 男	不明	一ヶ月前 ヨリ	左顔面神経麻痺 左側上肢不全麻痺	刺激ニ ヨリテ 痙攣ヲ 来ス	左上肢 萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	二五 男	不明	不明	両下肢不全麻痺	ナシ	下肢萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	四二 女	一ヶ月 寒冒	十日前ヨリ	両下肢及上肢運動時疼痛並ニ無力	ナシ	上下肢 萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	五五 男	一ヶ月 半前寒冒	二十日前 ヨリ	両下肢無力	大ニ減弱	四肢萎縮	脈搏細小	ナシ	ナシ	不明	
	一九 男	一ヶ月 寒冒	全右	両下肢無力並ニ 筋肉握痛甚シ	ナシ	全右	全右	左下胸濁 呼吸音弱	ナシ	不明	肺炎ノ治後

3) 姓名の欄にはヤミ語の名前がカタカナ表記されているが、本稿では空欄にし割愛する。

四八男	寒冒	十五日前ヨリ	右大腿後側圧痛 足関節運動不全 左ハ障害ナシ	右ナシ 左弱	下肢萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
一六男	一ヶ月 前半 寒冒	一ヶ月前 ヨリ	両下肢無力左足 関節運動不充分 殊ニ左下肢甚シ	左ナシ 右アリ	全右	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
二四男	全右	二、三日 前ヨリ	両下肢無力右足 関節運動不充分 右側ニ於テ甚シ	右ナシ 左アリ	全右	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
三〇男	一ヶ月 前寒冒	二十日前 ヨリ	両下肢無力右側 甚シク左ハ軽シ	右ナシ 左アリ	全右	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
五〇男	不明	不明	右下肢無力、歩 行時疼痛	右減弱 左アリ	一般不 良下肢 萎縮ス	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
五〇男	一ヶ月 前寒冒	一ヶ月前 ヨリ	両下肢無力 腰以下疼痛	ナシ	両下肢 萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
二五男	全右	十五日前 ヨリ	両下肢及左上肢 不全麻痺	ナシ	一般不 良下肢 萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
二五男	寒冒	三ヶ月前 ヨリ	下肢無力麻痺ト 云フ程ニアラズ	減弱	稍不良	ナシ	ナシ	ナシ	普通	
二六女	一ヶ月 前ヨリ 寒冒	十二日前 ヨリ	腰部及下肢運動 時疼痛並ニ無力	ナシ	不衰	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
二五男	不明	一ヶ月前 ヨリ	両下肢麻痺運動 時疼痛	ナシ	不衰	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
三三男	四ヶ月 寒冒	八日前ヨ リ	右肩胛右上肢疼 痛、無力拳上不 能	不明	未ダ萎 縮ナシ 握力現 象	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
一七女	不明	四日前ヨ リ	右肩胛部疼痛	普通	良	ナシ	ナシ	ナシ	普通	
三五男	二ヶ月 前寒冒	一ヶ月前 ヨリ	両上肢無力第二 胸椎部疼痛 腰痛、下肢ハ異 常ナシ	不明	良	ナシ	ナシ	ナシ		
三三女	三ヶ月 前寒冒	三ヶ月前 ヨリ	上下肢無力、運 動時疼痛	ナシ	患肢萎 縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
三五男	二十日 前寒冒	不明	下肢無力	減弱	下肢萎 縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
五六男	一ヶ月 前寒冒	不明	両下肢無力	減弱	全右	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
四〇男	一ヶ月 寒冒	不明	両下肢運動時疼 痛無力	減弱	一般不 良下肢 萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	

台湾総督府公文書「紅頭嶼流行病調査復命書」(足立 崇)

	四〇男	不明	不明	両下肢不全麻痺	不明	下肢萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	五〇女	二ヶ月前寒冒	不明	四肢疼痛	不明	不衰	ナシ	ナシ	ナシ	普通	
	四七男	三週前寒冒	不明	下肢運動時劇痛殊ニ伸展時後側筋握痛	減少	不良下肢萎縮	ナシ	右葉濁音弱	ナシ	不明	
	六〇男	一ヶ月前寒冒	数日前ヨリ	全身苦悶並ニ下肢疼痛	アリ	不衰	ナシ	右背部濁音弱	ナシ	不明	
	五五女	二ヶ月前寒冒	不明	両下肢無力	減弱	不良	ナシ	両上葉濁音弱	ナシ	不明	
	三七女	二ヶ月前寒冒	不明	四肢運動時疼痛並ニ無力	不明	不良	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	三五男	一ヶ月前寒冒	不明	両下肢不全麻痺	不明	稍不良	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	三〇男	一ヶ月前寒冒	二十日前ヨリ	下肢伸展時疼痛筋握痛殊ニ右側ニ甚シ	ナシ	下肢萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	五〇男	二ヶ月前寒冒	不明	両下肢運動時殊ニ伸展時疼痛筋握痛アリ神経痛ハナシ	ナシ	不良下肢萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	二四男	一ヶ月前寒冒	十五日前ヨリ	両下肢麻痺殊ニ左ハ甚シ	ナシ	不良患肢萎縮	脈緊張	ナシ	ナシ	不明	
	二五男	一ヶ月前寒冒	不明	左上肢両下肢全麻痺、右上肢不全麻痺筋握痛アリ	ナシ	四肢萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	二七女	一ヶ月前寒冒	不明	両下肢無力伸展時疼痛不全麻痺	ナシ	下肢萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	一九男	二ヶ月前寒冒	不明	両下肢無力ニシテ膝關節ニテ屈曲シ居リ伸展スレバ疼痛アリ両上肢伸展疼痛	ナシ	不良四肢萎縮	心悸亢進	ナシ	ナシ	不明	
	三〇女	不明	十四日前ヨリ	歩行困難両下肢不全麻痺	減弱	不衰	全右	ナシ	ナシ	ナシ	
	三〇女	一ヶ月前寒冒	不明	両下肢麻痺	ナシ	四肢萎縮	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	三五男	一ヶ月前寒冒	不明	両下肢不全麻痺左ハ甚シ	左ナシ右減弱	全右	ナシ	ナシ	ナシ	不明	

	二五男	寒冒	二ヶ月前ヨリ	衰弱	アリ	稍衰	ナシ	ナシ	ナシ	普通	
	五男	寒冒	二ヶ月前ヨリ	咳嗽咯疾	アリ	稍衰	ナシ	水泡音アリ	ナシ	不明	
	二三男	寒冒	五日前ヨリ	発熱胸部濁音及呼吸器音弱	アリ	稍衰	ナシ	アリ	アリ		急性肺炎
	四八女	寒冒	五日前ヨリ	発熱胸部濁音及呼吸器音弱	アリ	稍衰	ナシ	アリ	アリ		全右
	二七男	寒冒	二ヶ月前ヨリ	衰弱胸部濁音及呼吸器音弱	アリ	稍衰	ナシ	アリ	ナシ	不明	肺炎後ノ衰弱
	五四男	寒冒	二十日前ヨリ	衰弱、左肺ノ濁音及呼吸音弱	アリ	稍衰	ナシ	アリ	ナシ	不明	全右
	五二男	寒冒	一ヶ月前ヨリ	衰弱	アリ	稍衰	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	一八男	寒冒	三日前ヨリ	全身違和	ナシ	稍衰	ナシ	ナシ	ナシ	不明	
	四五男	不明	不明	衰弱胸部濁音呼吸音弱	アリ	稍衰	ナシ	ナシ	ナシ	不明	

総計五十七名 内 麻痺患者 四十八名（運動麻痺）

病後衰弱其他 九名

以上ノ五十七名ノ患者ハ今回流行病ニ関係アルベシト思惟セルモノニシテ尚症候ニ付キ二三補遺スル処アルヘシ

一、麻痺患者ノ多クハ麻痺ノ未タ来ラサル前ニ於テ寒冒ヲ経過セルモノ、如ク而モ多クハ寒冒ノ一旦治癒シ若干日労働ヲ試ミタルモノモ少ナカラス即チ多クハ病後ノ衰弱中ニ麻痺ノ表ハレタルト称スルモノ多キカ如シ（麻痺ハ運動性麻痺ヲ示ス以下全シ）

二、麻痺患者ハ麻痺セル四肢ノ随意的運動不能並ニ運動的疼痛ヲ訴ヘル外何等自覚的苦痛ナシ只「イラヌミルク」社及「イワギヌ」社ニ於テハ麻痺ニ加ヘテ全身衰弱ノ甚シキモノ三四名ヲ見タリ

三、浮腫ノ存スルモノハ全ク無之且心臟症状ノ存スルモノ、少キハ表示ノ如シ

四、膀胱及直腸ノ麻痺ヲ呈セルモノ、全クナク又瞳孔症状ニ付キテモ特記スヘキモノナシ

五、麻痺ハ多クハ四肢殊ニ下肢ヲ冒スコト最モ多クシテ腹部胸部喉頭部等ヲ冒セルモノハ全ク認メス

六、電気変性反応ハ電気器械ノ携帯ナキ為メ遺憾ナカラ実験スル能ハサリキ

七、知覚ハ多クハ甚シキ障害ナキモノ、如シト雖モ通辨ノ不熟及蕃人理解力ノ少キ為メ精確ヲ知ル能ハサリキ

八、麻痺患者ニシテ死亡セシモノ少ナシト云フ

以上ノ外普通患者十数名診断セルモ茲ニ略ス

第三、流行病ノ診定

今回多数ノ死亡者ヲ出セル寒冒様疾患ハ今ヤ殆ント全ク終息シ直接ノ臨床ノ検査並ニ細菌学的検査ハ実行スルニ由ナシト雖モ彼ノ罹患者ノ衰弱並ニ胸部ノ症状等ニ依リテ想像スレバ流行性感冒(インフルエンサ)ノ如キモノト推定ス

然リ而シテ斯ル多数ノ死亡者ヲ出シタル所以ハ始メテノ流行ハ重症型ノ多キコト、彼等ニハ医療ノ途ナク看護ノ法知ラサル為メ経過中肺炎(表示ノ如ク肺炎治後ノ患者少カラス)等ノ如キ重篤ナル合併症ヲ来シタルモノナリト思惟ス目下現存セル麻痺患者ニ就キテハ斯ル多数ヲ続出セルハ稀有ノ例ニシテ研究ノ価値多カルヘシト信ス此麻痺症ハ抑モ如何ナルモノナリヤ精細ナル論証ハ専門ニ亘ルヲ以テ結論ノ一言セバ脚気症トハ多クノ点ニ於テ異ルヘシ若該麻痺疾患ニシテ独立疾患ト認ムルヲ得ハ或ハ「ハイネ、メゼン」氏病ニ類セル点ナキニ非ス、蓋シ本症ハ一千八百四十年「ハイネ」氏一千八百八十九年「メゼン」氏ニ依リ研究セラレ「ヴァイクマン」氏ハ一千九百五年ニ於テ左ノ如ク分類セリ、(一)脊髄性麻痺(二)ランドリー氏麻痺(三)延髄若クハ橋性麻痺(四)大脳性麻痺(五)多発性神経炎(六)脳膜炎(七)不全症、即チ是レナリ然レトモ本病ノ病源ハ未ダ不明ニシテ此ノ如キ分類モ未タ以テ確定的ノモノニアラサルヲ以テ余ハ該麻痺症ヲ以テ「ハイネ」「メゼン」氏ノ症状ト該麻痺症トハ相違ノ点亦少ナカラサルニ於テオヤ、故ニ余ハ該麻痺症ヲ以テ単ニ流行性感冒様疾患治癒後ノ衰弱中ニ来レル流行ノ多発性神経炎ト命令シテ後日ノ研究ヲ待タント欲ス、而シテ茲ニ該麻痺症ハ果シテ「インフルエンサ」菌ニ依リテ起ルモノカ或ハ別種ノ病原体ノ存スルヤハ明言スルコト能ハス但シ彼等ノ非衛生的ノ生活非保健的ノ食餌等ハ此等疾患ノ助生ニ与カリテカアルコトハ専門知識ヲ籍ラスシテ明ナリ

第四、処置

今回ノ出張ハ病状ノ調査ヲ主トセシモ携帯セル薬品材料ヲ用テ施療ヲ行ヘリ、

第五、防疫

今回ノ疾患ハ甚シキ流行性ノモノナルヲ以テ駐在所ニ於テハ已ニ蕃産物交易ヲ停止シ居タリ蓋シ適當ノ処置ナルヘシ蕃社ニ消毒ノ清潔法ヲ行ヒハ必ス其ノ功アルヘキモノト信ス終リニ本調査ニ付キ羽島防疫医官、杵山警部ノ援助、中間巡查通訳ノ労並ニ駐在所職員ノ厚意ハ深謝スルモノナリ

右及復命候也

大正五年八月十四日

台東医院医務嘱託

警察医嘱託 庄司常治

台東庁長 能勢靖一殿